

(様式1・小学校用①)

令和6年度 学校評価報告

草加市立青柳小学校

(令和7年2月21日作成)

1 学校教育目標 あ…明るく元気な子 お…思いやりのある子 や…やりとげる子 ぎ…きたえる子	
2 重点目標・努力目標 ・命を大切にしたい、安心・安全な教育活動の実施 ・自己肯定感・自己有用感の育成 ・不登校・いじめの未然防止 ・ICT機器の活用とネットモラル教育の充実 ・組織的に行う生徒指導の充実 ・読書活動の推進	3 前年度の成果と課題 ○成果 「自己肯定感・自己有用感の育成」に関わる市委嘱研究への取組を通して、教員の授業力向上、児童の自己肯定感の育成、中学校区内の児童理解の推進が図られた。 ●課題 学級ごとの図書室利用や児童による読書機会の差を解消するため、個々の関心に応じて読書に興味を持てるような環境整備と働きかけをしていく。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○主任を中心に組織における運営を行うことができた。仕事量の多い分掌も分担して組織で行うことができた。 ○学校経営方針に基づいた教育活動を推進することができた。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○国語の研修において、研究授業や協議会をとおして、指導者から学んだことを日々の授業に生かすことができた。 ○研修主任を中心として組織的に計画的に運営することができた。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○学級指導や全体への安全指導、登校指導の定期的な実施により、登下校中の大きな事件・事故を防ぐことができた。 ○歯みがき指導を今年度再開し、前年度に比べて、校内むし歯治療率が向上した。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○倫理確立委員会の開催と日頃の情報共有により、教育公務員としての自覚と誇りを共有し、事故0を継続することができた。また、計画的な安全点検と迅速な対応で施設事故を防いだ。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	A	○すぐーによる配信、HPの公開により、保護者に情報を積極的に発信することができた。 ○学校公開や避難所防災訓練等により、地域の協力を得ながら教育活動を進めることができた。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○連絡協議会や合同研修会をとおして、関係各園、学校と連携を深めることができた。 ●幼保小中を一貫とした教育の取組を保護者にも周知していく必要がある。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○日課表が整理され、日課がわかりやすくなったことで、児童が時間を意識して活動することができるようになった。 ○学期末に会議をなくし、放課後ゆとりのある計画としたことで、成績処理を効率的に進めることができた。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの観点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各種学力調査において県平均との差も縮まり、児童一人ひとりの学力の伸びが見られた。 ●主体的・対話的で深い学びを意識し、児童がわかる・できる授業を確立していきたい。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳科の指導法について研修を行い、授業改善につなげることができた。 ●研修会で学んだ事項を全学級で実践し、指導力を高めていく必要がある。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○担任・専科教員・ALT間の連携を図り、計画的に授業を行うことができた。 ●指導方法等について専科以外の教員間でも研修を深めていく必要がある。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○わくわくやぎっ子活動により、縦割り活動が充実し、児童の交流を活発にすることができた。 ○あいさつ運動を実施し、あいさつのよい児童を称賛することで、あいさつのできる児童が増えた。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○人材バンクの見直し等、地域人材を活用した学習を計画することができた。 ●引き続き、学校の特色や地域人材を生かした学習の充実を図る必要がある。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ防止対策委員会や生徒指導委員会を通して課題を全教職員で共有し管理職のリーダーシップのもといじめの未然防止・迅速的な対応・早期発見等を組織的に行うことができた。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリアパスポートを各学年の計画に位置付け計画的に指導することができた。 ●中学校及び家庭・地域との連携を充実させていく必要がある。
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○個別の支援計画をもとに個に応じた指導を行うことができた。 ○保護者と寄り添いながら面談を進め、就学相談を丁寧に進めることができた。
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○読み聞かせ、よもよも読書の日を中心に、読書活動を推進することができた。 ●児童の図書室利用や読書の取組が推進されているものの、引き続き声かけ等していく必要がある。
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレットを活用した効果的な授業を展開することができた。 ●情報モラル教育を充実させ、児童にスマートフォンの使用を含め、ネットモラルを確実に身につけさせる必要がある。
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○指導計画に基づき、人権感覚を育成する授業を実施することができた。 ●人権感覚育成プログラムを活用し、児童の人権感覚を育成する必要がある。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	幼保小中を一貫した教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区の連携 ・中学校区合同研修会 ・幼保との交流 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○乗り入れ授業では、中学校の先生と関わりを持つことができ、中学校への見通しを持つことができた。 ○町探検や給食交流をとおして、園児と交流でき、効果的な取組となった。
	読書活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・読書機会の提供 ・児童への貸出し冊数 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○地域ボランティアによる読み聞かせ、教員による本紹介、よもよも親子読書の日・朝読書の推進等、本に親しむ機会を数多く提供できた。 ●様々な取組を保護者にも紹介し、児童の読書の取組を広めていけるようにする。
	教育相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携 ・相談機会の充実 ・保護者面談の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ケース会議に関係機関の担当者に入っただき、連携を深めた。 ○各種面談・相談の場を活用し、児童・保護者に寄り添った支援をすることができた。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

- 学校関係者からは、学校評価に関わる全ての項目において肯定的な評価をいただくことができた。特に、チーム青柳小が根付き、幹が徐々にしっかりと太く成長されていると強く感じます。益々チーム力の向上を楽しみにしております。職員の皆様頑張ってください。」とみられるように、青柳小のよさが伝わってきている。
- 日常的な授業改善や各種学力調査等の結果活用をしてきたことにより、児童の学力が向上してきた。市学調の結果からも、子どもたち一人ひとりの学力の伸びが見られている。子どもたちに落ち着いて学習する機会を保障し、「わかる・できる授業」を確立することができた。
- 国語科の研修への取組を通して、教員の授業力向上と読書活動の充実、児童の思いや考えを大切に授業展開の確立をすることができた。

6 次年度の改善策

- 児童にとって必要感のある課題設定や個別最適な学びの実現をすることにより、「わかる・できる授業」を確立し、子どもたち一人ひとりの学力をさらに高めていくようにしたい。
- 学級ごとの図書室利用や児童による読書機会の差を解消するため、個々の関心に応じて読書に興味を持てるような環境整備、中央図書館サービスの活用、よもよも親子読書の日の推進をしていく。
- 生徒指導、道徳教育、特別活動、人権教育、教育草案等、教育活動のあらゆる機会を捉えて、いじめ、不登校の未然防止に向けた働きかけを行っていく。